

大江健三郎

1935年生、東京大学文学部フランス文学科卒業。芥川賞、ノーベル文学賞作家

講演 “未来を作る働き”

このタイトルはポール・ヴァレリーの言葉からとっています。「働き」はヴァレリーのフランス語では *fonction*、英語では *function*。日本語では仕事とか機能とも職能とも訳されます。ヴァレリーはある講演で次のようにいっています。

“私たちの大切な仕事(*fonction*)は、未来を作るということだ。私たちは呼吸をしたり、栄養をとったり、動きまわったりするが、それは未来を作るための働きなんだ。”

いま私たちは大きい危機の世界に生きています。そのなかで、たとえば放射能の危機のない未来社会を作る、ということは私らのもっとも大きい仕事です。それを、とくに未来に生きる子供たちのために、どのように作るかが、現在の私らの一番根本的な仕事です。それについて考えたいと思います。この大会のテーマ、 伝統を分かち、未来を創る ということにつないで話したいと思っています。